御城中破損奉行
外構破損奉行
割場普請道具奉行
堂形奉行
宮腰・本吉・吉久・草嶋藏奉行
同下裁許
かち米并雜米奉行
小松詰米・詰塩・材木奉行
同下裁許
賄奉行
御馬奉行
山奉行
書物奉行
公事場土藏奉行并取次
細工奉行
斗升奉行
御小姓頭
射手頭
異風頭
女中
御小小姓
御小姓
寺社方
隱居領
御横目
郡奉行
普請奉行
射手
異風
作事奉行
御鷹奉行
御醫師
御茶堂
金澤町同心
奥部小代官

朱書。只今は小松御馬廻御番頭支配仕候。

無役

七尾に罷在小代官
算用之者
御鷹師
料理人
歩行之者
御小人頭
十村肝煎
穴生
他國御供使役引

一、不依大身小身、皆引之事。
一、他國逗留十一月迄は五十日引之圖、十二ヶ月より二十三ヶ月迄は二百日引之圖を以、役引可申事。
一、二ヶ年より上者、罷歸十二ヶ月引之事。
右之條々、被仰出之通無相違可有裁許者也。

萬治三年六月朔日　御印　今枝民部
奥村因幡
前田對馬

金澤御普請奉行

二二　御家中普請役並役引等御定

覺

一、自・他國共當分之御使等被仰付者、役人難引分共儘相勤、御用仕廻罷歸日數、如御定三歩共に役銀之内に而引可申事。
一、御藏返米被下面々、夫銀代米引申間敷事。
一、死去人役人者、一人一日に付五分四厘一毛八味四拂銀役、日算用を以可出之。但役人に而茂勝手次第之事。
一、御國之内御使、一夜泊りに而茂如御定役引可申事。
一、寄親無役之與力者、寄親之与頭に付役可相勤事。
一、寄親無与付無役人之與力、并遠所有之無与付は、役銀・引役等裁許之儀、武藤彌左衛門・生熊仁右衛門被仰付候事。
一、一歩人役を以出候分、一人一日に付一分五厘八毛一味六拂宛、二歩役銀之内へ加可出事。
一、銀役・小入用共に、一人に付七分宛之事。
一、不參銀一人一日に付一匁宛之事。
一、役人御國之内宿賃、一夜一人銀七厘宛之事。